NIKKEI Network
ニッケイ・ネットワーク
海外日系人協会だより
2021
NO.51
DEC.

「新時代への挑戦―時空と世代を超えてつながる日系」

第61回海外日系人大会 32カ国より560名の参加を得て初のオンライン開催

開会式でおことばを述べられる秋篠宮皇嗣殿下

当協会は、2021年10月30日(土)、31日(日)の2日間にわたり、第61回海外日系人大会を、オンラインアプリZoomのウェビナーにより開催した。コロナ禍の最中であることにより、大会史上初めてのオンライン開催となった。今大会では、「新時代への挑戦―時空と世代を超えてつながる日系」を総合テーマとした。日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語の4カ国語による同時通訳を導入し、世界各地の日系コミュニティがコロナ禍でどのような影響を受け、これにどう立ち向かって来たのかを共有し、今後の課題や可能性を探った。初日の開会式には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がオンラインでご視聴された。

オンライン開催にあたり、従来の大会では「移住者・日系人であること」としてきた参加資格を今大会では設けず、移住者・日系コミュニティや日系人、海外日系人大会に関心を寄せる人であれば誰でも、居住地・国籍や、日系・非日系を問わずに参加できるようにした。その結果、過去最高の参加国数となる32カ国より、560名の参加登録があった。特に、ベルギー、ルクセンブルク、フィンランド、サモア、モロッコなど、これまで一度も参加のなかった地域からの参加があり、海外での日本人・日系人の活動の広がりを印象付けた。また、日本からの申込みも非常に多く、日本社会における日系コミュニティへの関心の高まりも感じられる結果となった。

初日の開会式では、冒頭に、10月に就任したばかりの平井伸治当協会新会長(全国知事会会長・鳥取県知事)が主催者挨拶を述べた後、秋篠宮皇嗣殿下がビデオメッセージでおことばを寄せられた。皇嗣殿下は、パンデミックによって私たちの日常が大きく変わり、経済・社会活動にも深刻な影響を及ぼしていることに触れられ、「こうした状況下にあって、世界各地の日系社会も大きな人的および経済的ダメージを被り、『お祭り』や『運動会』など、今まで日系社会の活性化に寄与してきた行事や、団体としての活動のほとんどが中止されたと伺っております」と述べられた。その一方で、若い世代を中心にオンラインイベントやセミナーなどが開催され、新たな連携の広がりが実現しつつあることについて、「大変心強く感じます」と話された。

茂木敏充外務大臣(当時)、山東昭子参議院議長よりご挨拶をいただいた後は、コロナ禍における各地の現状と対応について、海外11団体より寄せられたビデオメッセージによる報告を上映。さらに、パンアメリカン日系人協会と共催で実施した「国際日系デー」の公式ロゴマーク募集選考結果について、パンアメリカン日系人協会フェルナンド・スエナガ会長が発表した(選考結果の詳細はP6に記載)。

その後の基調講演では、合資会社イデア・ネットワーク代表の松本アルベルト氏(アルゼンチン出身・2世)が「コロナ禍後の日系人と日系コミュニティの可能性」と題し、コロナ禍における海外、国内日系社会の現況と展望について話した。国費留学生として来日してから現在まで、およそ32年間にわたって常に国内外の日系コミュニティの動向を注視し、支援してきた経験と洞察力、豊富な知識から、コロナ禍における日系コミュニティの現状を分析。「withコロナ時代」における課題と可能性をわかりやすい言葉で解説し、講演後には、参加者から寄せられた質問にライブ形式で回答した。

ウェビナーという開催形態の都合上、今大会では各国の参加者同士が直接顔を合わせて交流することは叶わなかった。そのため、大会で旧知の人々との再会を楽しみにしている参加者にとっては物足りなさもあったことと思う。また、国によっては時差の関係でオンタイムでのライブ参加が難しかった参加者も少なくない。さらには、従来の大会で行ってきた「大会宣言」の取りまとめと採択についても、今大会では時間的・技術的な制約があり行われなかった。そうしたデメリットがあった一方で、参加国の広がりや、「オンライン開催だからこそ参加できた」「はじめて参加できて嬉しい」と今大会への参加を喜んでくれた人々の声は、大会開催事務局として大きな励みとなった。「今後の大会にもオンラインを取り入れてほしい」という期待の声も多く、次回以降の開催形態については、リアルとオンラインのハイブリッド大会を目指して今後模索していくこととなる。

なお、今大会の模様は当協会YouTubeチャンネル(「海外日系人協会チャンネル」で検索)にて4カ国語で公開している。(大会2日目の様子は次頁へ続く)

基調講演の質疑応答。松本アルベルト氏(左)と司会の当協会原本職員

◆大会2日目◆

――シンポジウム――
「コロナとたたかう日系社会　今後の課題と挑戦」

大会2日目となる10月31日（日）は、日本時間の午前10時より「1.日系団体の活動とその活性化」「2.日系メディアと日系博物館の役割」「3.在日日系社会の課題と挑戦」と題したそれぞれ60分間のパネルディスカッションを行った。各パネルに盛り込みたい内容が多く、時間的な制限もあることから駆け足の進行となってしまったが、パネリスト、コメンテーターの皆さんからはそれぞれの立場からの具体的な事例や提言など、示唆に富むお話をいただいた。
※パネルディスカッションの全容は、海外日系人協会YouTubeチャンネルを御覧ください。

----- パネルディスカッション1.「日系団体の活動とその活性化」-----

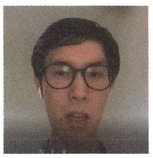
モデレーター：
中井良則海外日系人協会常務理事

新型コロナウイルスCOVID-19の感染拡大により、どこの日系コミュニティも対面でのイベントや会議等の開催が難しくなった。しかし、インターネットを活用し、新たな試みやプロジェクトを実践しているコミュニティもある。第1パネルでは、医療、日本語教育、青年部、婦人部など、それぞれの現場でどんなことがあったのかを直接聞くことで経験を共有し、日系コミュニティの活性化の道を探る。

パネリストと発表内容

岸本グスタボ（ペルー・3世・医師）
コロナ禍でのオンライン健康相談や遠隔診療をはじめ、人々の健康を守るために日系社会が立ち上げた「ペルーがんばれ!」「3C（スリーシー）」「がんばれニッケイ!」という3つのキャンペーンについてそれぞれ紹介。

日下野　良武
（ブラジル・1世・ブラジル日本語センター理事長）
授業のオンライン化によるメリット・デメリットや、コロナ禍による学校の閉鎖、学習者の減少、地球規模の生徒獲得競争が免れない現状等について。



中村　剛之（メキシコ・2世・青年部活動）
メキシコの日系青年部による活動の紹介。コロナ禍により初めてオンラインで実施したキャンプをきっかけに、地方や他国の青年部との交流が広がったことを紹介。

ハケウ・ダル・ヒ・ケーラー
（ブラジル・非日系・栄養士・婦人部活動）
非日系でありながら自分が日系団体の活動に関わるようになった経緯や、所属している南日伯援護協会婦人部の活動、コロナ禍において日系コミュニティの婦人部が和食・日本食を通してどんな活動を続けているかについて紹介。

質疑応答とまとめ

オンライン診察についての質問に、岸本氏は「我々医師だけでなく患者サイドもオンライン技術を学ぶ必要があったが、昨今のSNSのおかげで情報が普及し、かなりの部分がデジタル化できていたことが幸いだった」と述べた。

オンライン授業で大切な点は?との質問について日下野氏は、「学習者の幅が広いのでそこをうまく利用すること」としたうえで、「日本語教育にとって何より必要な触れ合いの場がなくなったのは寂しいが、そのありがたみはパンデミックの後に必ず感じるだろう」と回答した。

若者の立場からの働きかけやアイデアについて聞かれた中村氏は、「地域において通信環境の整備を進めること、高齢者へのサポートを家庭だけでなく組織的に進めることが大切」との考えを述べた。

また、非日系の立場から見た日系コミュニティについて問われたハケウ氏は、「伝統に対する尊重、周囲の人々への尊敬、困難を乗り越える力、そういった団結心が日系コミュニティの大きな力だと思う」と回答した。

モデレーターの中井氏は、「それぞれの発表から日系コミュニティのさまざまな活動が地域の人々に開かれ広がっている印象を受けた」とし、「それが今後の日系の活性化にも繋がっていくだろう」と感想を述べた。

----- パネルディスカッション2.「日系メディアと日系博物館の役割」-----

モデレーター：
柳田利夫慶応義塾大学名誉教授

日系メディア、日系博物館は、コロナ禍をどのように乗り越えようとしたのか。日系社会のレガシーの継承という視点から、エスニックメディアとしての新聞・雑誌や、日系博物館・資料館の取り組みを紹介するとともに、その役割について考える。

パネリストと発表内容

室橋　美佐
（アメリカ・1世・「北米報知」ゼネラルマネージャー）
シアトルの日系コミュニティにおける「北米報知」の立場や役割について、創刊からの歴史を振り返ると共に、現在の取り組みなどを紹介。

木本　加志子
（ペルー・2世・「キョウダイマガジン」発行者）
在日ヒスパニック・コミュニティを対象として1992年に創刊した情報誌「キョウダイマガジン」の概要や使命について、これまでに発行された216号の中から、それぞれの時代を象徴する30の表紙を紹介しつつ解説。

シェリー・カジワラ
（カナダ・2世・カナダ日系博物館館長兼キュレーター）
カナダ最大の日系カナダ人の資料コレクションの管理を行う博物館が、コロナ禍において、オンラインを駆使し開催した展示や子ども対象の漫画キャンプなど、新たな取り組みに果敢にチャレンジした姿を紹介。

中根　卓（日本・JICA横浜 海外移住資料館館長）
日本人の海外移住についての調査・研究、資料の収集・整理・保存、展示・利用を行っているJICA横浜 海外移住資料館が、コロナ禍で取り組んだ実践例と、創立20年リニューアル後の展示内容について紹介。

コメンテーター

岡野　護（海外日系新聞放送協会専務理事）
コロナ禍で海外の邦字紙は厳しい状況に置かれた。今後、WEBの活用がより活発化されると考えられる。年数を重ねることで日系メディアの発行自体が将来アーカイブとなり、資料のとしての価値も大きくなっていくだろう。

平井　伸治（メキシコ・社会人類学高等研究所・東北部キャンパス教授）
4つの事例を通して、「変化していく組織」としての日系メディアと日系博物館という側面が見られた。対象となる集団やコミュニティの変化、社会の変化に対応するために活動内容を工夫し、多様化している様子がうかがえた。「多文化共生」が重要なキーワードの1つではないだろうか。

質疑応答とまとめ

日系メディアに対して、将来的に対象とするコミュニティを広げていく可能性があるのかを問われ、「多文化共生に寄与していきたい」（室橋氏）、「日本語を含めた他の言語についても雑誌を発行したい」（木本氏）という回答があった。

また、日系博物館に対しては、小規模の博物館へのアドバイスを問われ、「トロントの日本文化会館と共に、地方の博物館を支援していく」（カジワラ氏）、「ネットワークを作って、協力し合っていきたい」（中根氏）との回答があった。モデレーターの柳田氏からは、「日系レガシーを収集しそれを発信する媒介としてメディアや博物館を捉え直し、これからどのような未来を構築していけるか、議論する場を立ち上げてほしい」と希望が述べられた。

----- パネルディスカッション3.「在日日系社会の課題と挑戦」 -----

モデレーター：
アンジェロ・イシ海外日系人協会常務理事
在日日系社会はコロナ禍によりどのような影響を受けたのか。就労、子弟教育、高齢者問題や、日本社会との共生、起業に成功した日系人の例などを紹介していただきながら、今後の課題と挑戦について考える。

パネリストと発表内容

安富祖　美智江
（ブラジル・2世・NPO法人ABCジャパン理事長）
日本での子育てを手探りで経験してきた立場から、外国に繋がる子どもたちの教育支援を中心に、地域コミュニティとの共生に取り組むABCジャパンの活動事例を紹介。

朝倉　美江
（日本・金城学院大学人間科学部教授）
年金、医療、介護に代表される在日日系高齢者の課題について。彼らが直面している「言葉の壁」「心の壁」といった問題について事例をあげながら、日系人による介護ヘルパーの活躍、多文化介護の必要性などについて紹介。

川崎　俊広（ブラジル・2世・株式会社友電設社長）
横浜市鶴見区で電気工事の会社を起業するに至った経緯等について紹介。同様に鶴見で起業し、日系人をはじめとする在日外国人を雇用している電気工事会社の社長らが集まり、共に支え合い発展していくために設立した電友協会の活動についても紹介。

質疑応答とまとめ

日本社会でさまざまな活動を成功させるヒントとは?と問われた安富祖氏は、「自分が苦労した経験から、同じ経験をしなくても済むようにと思って活動している」「簡単な会話ができるくらいの日本語はやはり必要。日系人で固まらずに日本人と関わることが大切」と答えた。

日系高齢者たちの役割について聞かれた朝倉氏は、「日系の方々の歴史は日本にいる私たちにとっても大切であることを、多くの人々に伝えてもらいたい」と回答。

電友協会のような組織をとりまとめ成長させていくためのヒントは?との質問に川崎氏は、「すべての従業員たちの生活をよくしたいという共通の想いがある。信頼を得るための努力や忍耐も必要だと思う」と回答した。

モデレーターのイシ氏は、「30年以上となる在日日系コミュニティの世代の広がりを実感できた。『日系』というキーワードでくくられた人々が、この日本においてどういうコミュニティをこれから作っていくのかは、大きなイシューだと思う」と結んだ。

参加者からのコメント

- 「日系社会が直面している困難や、可能な解決策も提起されているのを見ることができ、勉強になるイベントでした」（ブラジル・3世）
- 「オンラインで参加できるのはとても有難かったです。今後もぜひ継続してほしいと思います」（メキシコ・2世）
- 「20年位前までは日本人にあまりよく思われていなかった"デカセギ"就労者ですが、日本で成功した事例を聞きうれしくなりました」（ブラジル・1世）
- 「チャットで様々な国からメッセージが寄せられていて、離れていても繋がりを感じることができ、とてもよかったです」（日本・日本人）
- 「若い日系人たちが、彼らの意見や経験をシェアしてくれたことがとてもよかったです」（アルゼンチン・3世）
- 「今回、オンラインでの開催になり初めて参加することができました。リアルタイムで世界の日系人とつながっているという心地よい連帯感を感じました。（パラグアイ・2世）
- 「今後の大会で、日本社会の行動が各国でどのような影響を与えるのかをテーマに取り上げてほしいです。各国で日系コミュニティの歴史や良い事例を紹介し、横の連携を図ることができると思います」（ボリビア・2世）

オンライン運動会で元気に交流!

日系社会次世代育成研修(中学生)オンライン日本体験プログラム

運動会の司会進行を務めた当協会の水上業務部長(左)と濱口職員(右)

6カ国25名が参加したオンライン運動会

オンライン運動会を裏で支える当協会スタッフたち

JICAからの受託事業として当協会が実施している日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)は、従来より、カナダと中南米各地の日系団体が運営する日本語学校で学ぶ生徒の中から成績優秀者を日本に招へいし、ホームステイや中学校体験入学などを実施してきた。しかし、コロナ禍の影響で昨年度より来日研修が叶わず、オンライン研修として実施している。

今回は、昨年度はじめて実施し好評を得たオンライン移住学習に加え、普段、訪日研修で実施しているアイスブレイクや、日本文化講座、ホームステイといった日本体験プログラムをオンラインで実施した。1日目は世界に広がる日系の仲間たちと楽しむオンライン運動会、2日目は「日本人と妖怪」というテーマから考える日本文化講座、3日目は日本のホストファミリーと研修員をつないだオンラインならではの相互ホームステイ。初日の10月9日に実施したオンライン運動会には、6カ国より25名の生徒たちが参加し、赤組・青組に分かれて得点を競い合った。

工夫をこらした競技種目にチャレンジ

運動会の企画に当たっては、オンラインでも楽しめて、なおかつ日本語会話が十分でない生徒でも参加できる種目を考える必要があった。そこで、今回の企画は、国内外で運動会のプロデュースを行う「運動会屋」(NPO法人ジャパンスポーツコミュニケーションズ)の協力を得て実施。「全力ラジオ体操」では、画面上に映し出された参加者たちのラジオ体操の様子を審査員が見ながら「全力度」を判定したほか、「国歌でイントロ・ドン!」「お家で借り物競争」「チーム対抗選抜リレー」「目指せ、コミュニケーションの達人」「以心伝心ゲーム」などなど、身体を使って汗をかくものから、クイズ形式、ゲーム感覚で参加できるものまで、さまざまな種目を取り入れた。

各地の日系社会でも運動会等のイベントが開催できなくなって早2年。今回のオンライン運動会では、国は違っても同じ日系の仲間たちが一緒に体を動かしたり、作戦会議をしてゲームをクリアしたりする中で一体感を感じることができた様子だった。

「全力ラジオ体操」を実践するスタッフ

参加した生徒たちの感想

「他の国の日系人と共有したり、パンデミックのためにできなかった活動をしたりすることができ、とても楽しくて仕方がありませんでした」(ドミニカ共和国・15才)

「人生でほぼ初めて運動会を経験しましたが、オンラインと感じさせないぐらい距離が近くて嬉しかったです。色んな国の日系人と喋れてとても新鮮に感じました。一番楽しめた所は最初にやったラジオ体操でした。皆と身体が動かせてより気合が入りました」(カナダ・13才)

「本当に楽しくて、終わってほしくなかったです。まだほかのプログラムにも参加しているので、楽しんで友達を作っていきたいと思います。こんな素敵な体験をありがとうございます」(ボリビア・14才)

「楽しかったです。運動会がオンラインでできるとは思っていませんでした!ありがとうございました!」(パラグアイ・13才)

相談センターだより
最近の相談事例から

Covid 19 – Auxílio-doença e ferimento do Seguro Social de Saúde
コロナ・傷病手当金

相談センター　山形エレナ

(公財)海外日系人協会 日系人相談センター
■相談受付　月曜日～金曜日(土・日曜、祝祭日を除く)
14:00～17:30
■対応言語　ポルトガル語、スペイン語、日本語
■電話番号　045-211-1788

Q No inicio mês de julho senti sintomas de cansaço, febre baixa e dores de cabeça. Como está aumentando os casos de infectados pelo coronavirus, liguei para o Posto de Saúde para fazer o teste de PCR, me falaram que para esperar 3 dias e se os sintomas não desaparecessem era para retornar a ligar e marcar o teste. No terceiro dia fiz o teste PCR e como o resultado deu positivo, fui internada logo em seguida por 3 semanas. Como já tinha tomado as duas doses da vacina, fui liberada para ir trabalhar no dois primeiros dias, porem devido a meu resultado positivo, os funcionários mais próximos, meu marido e meu filho tambem tiveram que fazer o teste do PCR, e o único que deu positivo foi o meu marido e por ser assintomático cumpriu o período de tratamento em casa juntamente com o nosso filho pois ele tambem não poderia sair de casa.
O período em que fiquei internada e mais a quarentena fiquei sem salário e me falaram que poderia requerer o Auxílio-doença e ferimento do seguro social de saúde, pedi ao meu filho que cursa o 1° ano do secundário, que verificasse de como fazer a solicitação, apesar dele saber bem o japonês, não percebeu que a página da Associação do Seguro Social era aquela destinada aos funcionários navais, e imprimiu o formulário, e eu por não saber ler, não pensei que estivesse errado. Entrei em contato com uma intérprete para ir comigo até a Associação do Seguro Saúde do Japão (Kyokai Kenpo) ela percebeu que o formulário estava errado, que era para corrigir com dois riscos horizontais, escrever o nome correto e colocar o meu carimbo pessoal. Como nunca havia falar desta forma de correção, não sei como isso se procede, gostaria que me explicasse melhor. Tambem, meu marido que não teve necessidade de ficar internado, tem como receber o auxílio?

A Que bom que se recuperou bem, talvez a vacina tenha surtido efeito não deixando que a doença fique muito grave.
A sua dúvida sobre os dois riscos horizontais e o carimbo: Esta forma de correção é muito utilizada quando há necessidade de retificar uma parte do documento. Risca-se duas linhas horizontais sobre a parte errada, logo acima escreve-se o correto e ao lado o carimbo pessoal. No seu caso, entrei em contato com a Associação do Seguro de Saúde do Japão (Kyokai Kenpo) e me informaram que não aceitarão esta forma de correção, havendo necessidade de imprimir e preencher o formulário correto.
No caso do seu marido, por ter testado positivo e ter feito o tratamento em casa, seguindo todas as instruções do oficial de saúde, tambem poderá requerer o Auxílio-doença. Porem, devido a dificuldade do preenchimento da parte do hospital (folha 4) do formulário, imprimir a folha 医療状況申立書 (formulário da situação atual do estado clínico), e responder todas as perguntas em japonês, anexar o resultado do teste do PCR do Posto de Saúde, outros documentos solicitados, e dar a entrada na solicitação na Associação do Seguro de Saúde do Japão (Kyokai Kenpo).

Formulários e documentos necessarios (no topo da página tem a opção de escolha de idiomas-tradução automática)
https://www.kyoukaikenpo.or.jp/g2/cat230/r124/
療養状況申立書(コロナ申請用) (formulário da situação atual do estado clínico)
https://www.kyoukaikenpo.or.jp/file/ryoyojokyo-crn.pdf

※Devido a infecção do coronavirus ter sido enquadrado como "Doença Infecciosa específica " pelo Ministério da Saúde, os custos do teste de PCR e despesas hospitalares serão basicamente custeados pelos fundos públicos. No entanto, aqueles que não apresentam nenhum sintoma e desejar fazer o teste PCR voluntariamente, deverá arcar totalmente com os custos, pois este teste não está coberto pelo seguro social de saúde, porem, se testar positivo passa a ser totalmente custeado pelos fundos públicos.

相談 7月のはじめ、微熱と倦怠感などの症状がありました。PCR検査を受けたいと思い保健所に電話したところ、自宅で様子を見て3日経っても症状が変わらなければ検査すると言われました。私はワクチン接種を2回終えていたこともあり、3日間のうち最初の2日間は出勤しました。しかし、3日経っても症状が変わらず、保険所に連絡し検査してもらったところ陽性であることが判明し、即入院となりました。
職場の同僚や夫、息子も検査を受けることになり、同僚と息子は陰性でしたが夫は陽性の判定が出ました。ただ、夫は無症状だったため自宅療養となり、息子は外出禁止となりました。
私は3週間後に退院して普通の生活に戻り、また夫も息子も無事に療養・隔離期間を終了しました。自分が働けなかった期間の傷病手当金がいただけるという話を聞き、私は日本語ができる中学1年生の息子に頼んで、インターネットでそのための申請書を見つけて印刷してもらいました。(その時は、息子が印刷してくれた申請書が船員用のものであることに気づきませんでした)。
その後、全国健康保険協会に同行してもらうため通訳を雇ったのですが、その通訳の方が、申請書が船員用であることに気づき、それを修正するために申請書名を二本線で消し、正しい申請書名を記載した上で私のハンコを押すようにと言いました。私はこのような修正の仕方を聞いたことがないので、これでよいのかどうか教えてください。また、入院せず自宅療養となった夫がこの傷病手当金を受け取るにはどうすればよいのかも教えてください。

回答 順調に回復してよかったですね。ワクチン接種があなたの症状を和らげ、重症化を防いだのだと思います。
私がけんぽ協会(全国健康保険協会)に確かめたところ、間違った申請書を使用した場合、その申請書名を二本線で消して正しい申請書名を記載する修正は認められないとのことでした。従って、改めて正しい申請書を印刷し、これに(病院と事業主を含め)必要事項の記入をする必要があります。
おっしゃるような修正方法は日本ではよく利用されていますが、事前に様式が決められている今回のような場合には、この方法は受付けられません。
PCR検査が陽性となったものの自宅療養となり隔離期間を終了したご主人の場合でも、傷病手当金を申請できます。ただ、自宅療養者の場合、申請書(4枚目)に病院による記入を行うのは困難ですので、この場合は申請書4枚目に代わるものとして、別途「療養状況申立書(コロナ申請用)」を印刷し、質問事項に対する回答を日本語で記入のうえ、PCR検査結果及びその他の必要書類を添付してけんぽ協会に提出する必要があります。

▼コロナ傷病手当金の申請書のURLは以下の通りです。(該当ページの冒頭に自動翻訳外国語選択欄があります)
https://www.kyoukaikenpo.or.jp/g2/cat230/r124/

▼また、療養状況申立書(コロナ申請用)のURLは次の通りです。
https://www.kyoukaikenpo.or.jp/file/ryoyojokyo-crn.pdf

(参考)
新型コロナウイルス感染症が厚生労働省より「指定感染症」に指定されたことにより、PCR検査費用及び入院費用は基本的に公費により賄われることになりました。ただ、新型コロナの症状が出ていないにも拘わらずPCR検査実施を自発的に希望する人は、PCR検査費用を自己負担する必要があります。この種の検査は健康保険でカバーされないためです。ただ、その場合でも、PCR検査で陽性と判定されるとその検査費用は公費で負担されることとなります。

日系社会 Topics

平井伸治新会長が就任

当協会飯泉嘉門前会長（徳島県知事）の全国知事会会長任期満了による辞任に伴い、この度、10月22日付で平井伸治全国知事会会長（鳥取県知事）が当協会の新会長に就任した。平井会長は、1961年生まれ。東京都出身。自治省（現総務省）職員、自治体国際化協会ニューヨーク事務所長等を経て2007年に鳥取県知事に就任以来、現在で4期目となる。

当協会会長就任直後に開催された第61回海外日系人大会の開会式では、新型コロナの災禍が世界中を覆いつくしている現状に触れたうえで、「国境を越えて私たちが力を合わせていくことで、この災禍を共に乗り越えていければと思います」と挨拶した。

開館20周年に向けて 海外移住資料館 常設展示一部リニューアル

JICA横浜　海外移住資料館は、来年2022年に開館20周年を迎える。これを機に、同館は常設展示場の一部をリニューアルすることとなった。開館してからこれまでの約20年間に生じた人の移動や、日系人・日系社会の変化も反映し、多文化共生社会に向けた魅力的な展示となるよう改善を行っていくという。

同資料館はリニューアル工事に伴い、2021年11月29日より閉館中。工事は2022年3月末までを予定しており、2022年4月にはリニューアルオープンする予定となっている。

CIATEコラボラドーレス会議 12月にオンラインで開催

CIATE（国外就労者情報援護センター・二宮正人理事長）が、サンパウロで毎年実施している「コラボラドーレス会議」。今年はブラジル時間12月3日・4日の2日間、オンラインで開催された。

「コロナ禍における在日ブラジル人の挑戦と2022年に向けた展望」と題し、コロナ禍における外国人労働者が、日本でどのような状況にあったのか、日本政府がどのような施策を行い、それがどのような効果をもたらしたのか、また、外国人及びそれを取り囲む地域社会がどのような努力を行ってきたのかというテーマを中心にとりあげ、日系ブラジル人の就労環境について情報を共有した。日本からは厚生労働省外国人雇用対策課の吉田暁郎課長、当協会田中克之理事長、さらに、NPO法人愛伝舎坂本久海子代表、東京外国語大学小島祥美准教授らが講演を行った。

会議の様子はCIATEのYouTubeチャンネルで公開中。

国際日系デー・ロゴマークが決定!!

第61回海外日系人大会初日の開会式では、今年6月20日より当協会とパンアメリカン日系人協会が共同で公募していた「国際日系デー」ロゴマークの選考結果が発表された。パンアメリカン日系人協会のスエナガ・フェルナンド会長（ペルー）より、2018年にハワイで行われた第59回海外日系人大会での「国際日系デー」制定や、今回のロゴマーク公募に至った経緯などが説明され、7カ国より応募のあった41作品の中から、大賞1点、佳作2点が発表された。

6月20日
国際日系デー

June 20
INTERNATIONAL DAY OF NIKKEI

20 de junio
DÍA INTERNACIONAL DEL NIKKEI

20 de junho
DIA INTERNACIONAL DO NIKKEI

大賞に選ばれたのは、ペルーのイトウ・アキミツさんの作品。イトウさんによると、受賞作は、国を離れ舞い戻る渡り鳥であり長寿の象徴でもある「鶴」をメイン・コンセプトとし、世界の東から西へと渡っていく様子を表しているとのこと。また、その羽は日系人の歴史を表し、増え続ける本のページをイメージしている。

佳作には、ブラジルのギルマル・ナシロさんによる桜をモチーフとした作品、コロンビアのヘルマン・モリミツさんらによる太陽（日本国旗）をモチーフとした作品が選ばれた。なお、副賞として大賞を受賞したイトウさんを次回東京で開催予定の第62回海外日系人大会に招待する。

NIKKEI Network NO.51 2021 DEC.
海外日系人協会だより
発行／（公財）海外日系人協会　〒231-0001　神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2F
TEL:045-211-1780　FAX:045-211-1781
E-mail:info@jadesas.or.jp　URL:www.jadesas.or.jp　編集発行人／椿 秀洋

日本で安心して過ごす為に！
Health and Life Insurance for foreigners in Japan
短期滞在・日本在住・企業就労の外国人向け医療・生命保険
短期滞在・在住者向け保険
VIVA MED-S・VIVA MED-30
(Life and Health coverage)
・短期滞在には医療保障100%のVIVA MED-S
・在住には医療保障30%のVIVA MED-30がそれぞれオススメです。
New
外国人社員・スタッフ向け保険
VIVAライト・VIVAガード
・年間「12,000円～」と手頃な価格で用意。
・外国人スタッフの福利厚生の一環としてオススメです。
外国人留学生向け保険
外国人技能実習生・特定技能1号向け保険
LCI家財総合保険
LCI日本人向け保険
For more information, call:
TOLL FREE: 0120-656-684
TEL: 046-265-6685
Visit www.vivavida.net
VIVA VIDA! Medical Life
少額短期保険会社
(株)ビバビーダメディカルライフ
VIVAVIDA MEDICAL LIFE CO., LTD
関東財務局長（少額短期保険）第51号